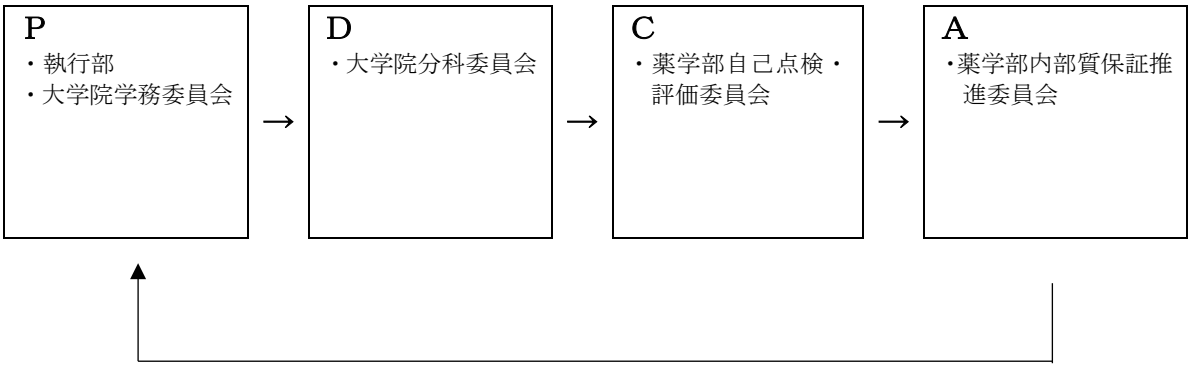
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　薬学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年度第１回薬学部内部質保証推進委員会（令和６年 10 月 16 日（水）～10 月 23 日（水）メール開催）において，令和６年度全学自己点検・評価の結果が薬学部自己点検・評価委員会から報告された。薬学研究科においては修業年限内で学位を取得し，修了できるようきめ細やかな指導が求められているため検討を進めるよう，薬学部内部質保証推進委員会委員の学外委員からも意見があった。

大学院学務委員会では，上述の結果及び意見等を受け，研究や学位論文の進捗状況を組織的に点検するための取組として「研究発表会」を令和７年３月 21 日（金）に開催した。令和７年度からは「薬学特別研究」の成績評価に「研究発表会」の評価を加えることで，修業年限内で計画的に研究を進め学位論文を作成できるよう指導している。

これらの大学院学務委員会が所管となり実施する取組は，大学院分科委員会で審議・報告がなされ，その結果は自己点検・評価報告書として薬学部自己点検・評価委員会で報告がなされる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

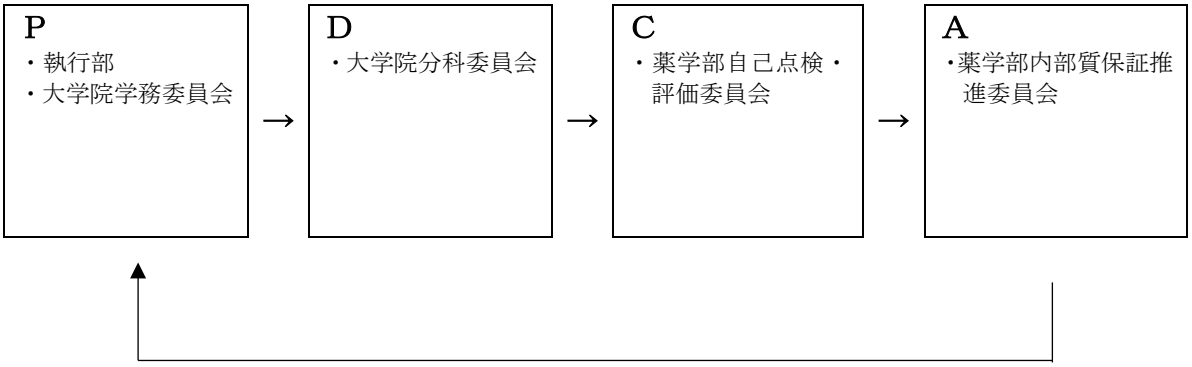
【提言（改善課題）】

日本大学薬学部内部質保証相関図に基づき，内部質保証システムの点検・評価を行う体制を整備しているものの，その仕組みは整えられているものの，実際の運用には至っていないため，整備した内部質保証体制の下，着実に取り組んでいくよう改善が求められる。

大学院学務委員会が所管となり実施している各種取組（入学者選抜，ＦＤ活動，学位授与等）を大学院分科委員会に随時報告を行い，その取組内容，検証結果等を一年に一度の自己点検・評価報告書に記載することで点検・評価を行っている。さらに，その点検・評価に基づき改善を要する事項は薬学部内部質保証推進委員会から執行部へ提言がなされ，優先事項から大学院学務委員会に諮問がなされることで教育の質の向上を図る。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，高度な専門性を有する人材養成及び研究推進の観点から，教育研究組織の適切性について，学問の動向や社会的要請等に対応すべく，薬学部自己点検・評価委員会が，大学院学務委員会や大学院分科委員会から提供される収容定員充足率などの指標に基づき，現行の薬学研究科体制が適切に機能しているかを点検する。点検・評価結果は，薬学部内部質保証推進委員会に報告され，学問の高度化や社会的な研究ニーズの変遷に照らし，組織編制の妥当性について検証を行う。検証の結果，組織改編や定員変更の検討が必要と判断された場合は，執行部と大学院分科委員会において具体的な計画を策定する体制を整える。

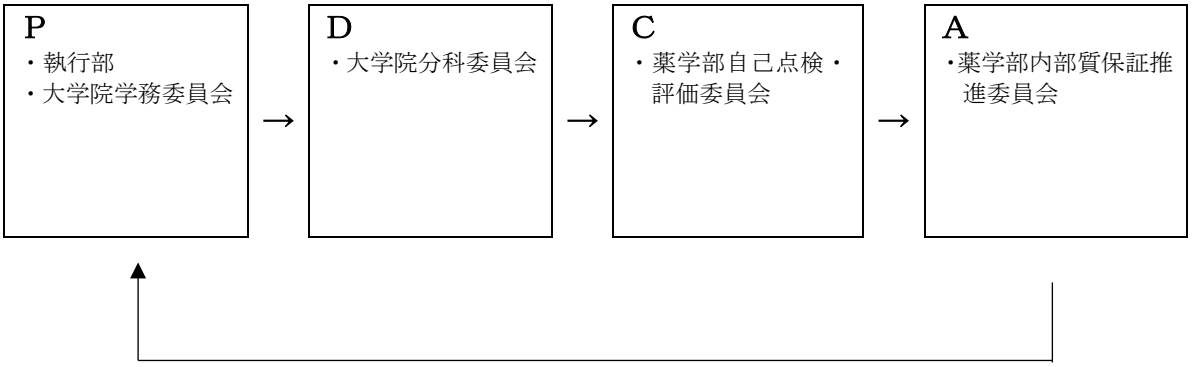
現状において，本研究科は定員充足率が安定に推移していること及び高度な専門知識を持つ薬剤師や研究者に対する社会的な需要が依然として高いことを確認しており，現時点では専攻の新設や改組の必要性はないと判断している。組織の大枠に変更はないものの，内部組織の質的向上を図るため，自己点検・評価の結果を受けた薬学部内部質保証推進委員会の提言に基づき，執行部が中心となって，研究科全体の教育研究活動の活性化及び学位取得に向けた研究環境の充実を図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育方法等に関する検証は大学院学務委員会が所管となり，大学院分科委員会にその結果を報告しているが，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会での定期的な検証には至っていない。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

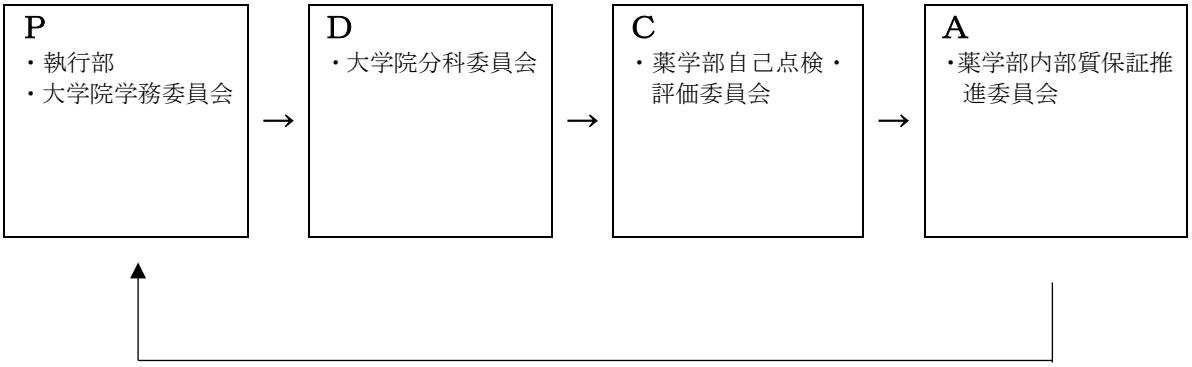
薬学研究科における講義科目のうち，令和６年度は２科目，令和７年度は４科目をオンライン開講とした。オンライン開講については「学生による授業評価アンケート」で履修者から要望があった事項であるが，大学院学務委員会として各科目の特性を考慮し授業方法を検討した結果である。今後も大学院学務委員会の各種取組の中で，大学院生の意見も取り入れ，教育内容・教育方法の改善・向上を図る。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき，適切かつ公正な入学者選抜を実施するため，以下の枠組みで定期的な点検・評価を行っている。点検・評価の基準は，過去の志願者数・受験者数・合格者数・入学者数，学生による授業評価及び社会人学生のニーズや受験生の動向などを指標としている。点検の体制とプロセスは，大学院学務委員会が，入試結果や入学後の学修状況等のデータを収集・分析し，入試方法や教育方法の課題を抽出する。大学院学務委員会で具体的な制度設計を行い，大学院分科委員会での審議を経て，新たな入試施策を決定・実施する。

入学者選抜の多様化と学修環境の整備を図った具体的な事例は，以下のとおりである。大学院学務委員会において，学士課程における学習歴，学力水準，能力を測る選考方法としてＧＰＡ値，卒業論文発表会の成績評価を重視する「推薦入試」の導入を決定し，令和５年度より実施した。これにより，学部段階から高い学力を有する学生を早期に確保するとともに，受験生の過度な入試負担を軽減し，内部進学の活性化につなげた。なお，導入後の学力や修学状況の点検評価は一年に一度，自己点検・評価報告書に記載することで点検・評価を行っている。さらに，その点検・評価に基づき改善を要する事項は内薬学部部質保証推進委員会から執行部へ提言がなされ，優先事項から大学院学務委員会に諮問がなされることで教育の質の向上を図る。本研究科の理念・目的が，地域医療等の社会ニーズと合致しており，社会人からの志願者が一

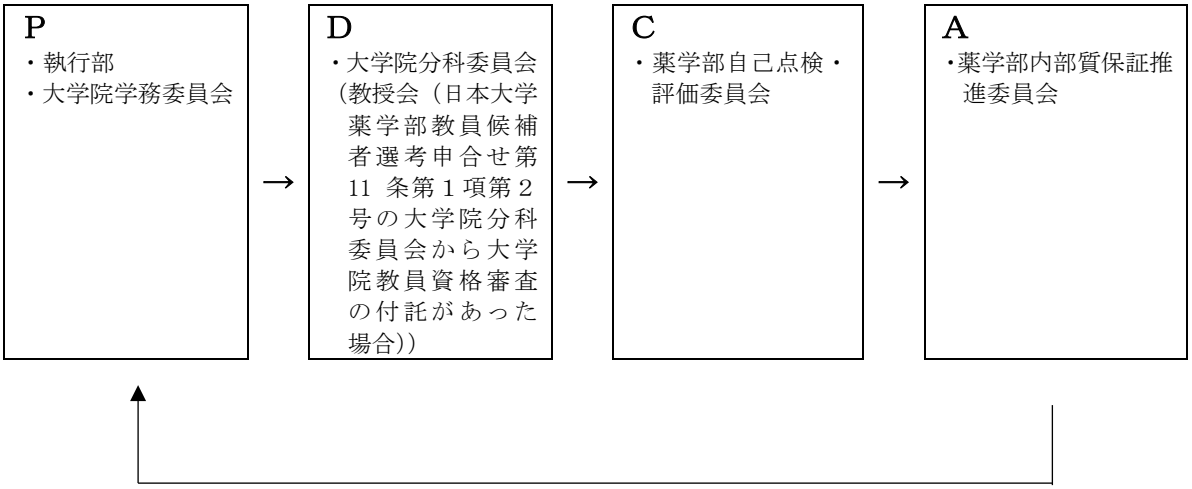
定数存在することを自己点検・評価により再確認した。これを受け，社会人学生の就労と学修の両立を支援するため，講義科目へのオンライン開講を組織的に導入した。この結果，社会人学生の受入れが促進され，多様な背景を持つ学生の確保に寄与している。これらの組織的な取組の結果，令和２年度以降，収容定員を安定的に充足しており，本研究科の教育・研究体制は社会的に高く評価されていると判断している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，高度な教育研究活動を永続的に推進するため，「学部等教員組織編制方針」に基づき，以下の体制で教員組織の点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「教員組織編制方針」への適合性を主軸とし，教員の年齢構成・職位構成のバランス及び男女比等を客観的な指標としている。教育研究活動の実施に必要な教員組織の編成方針として「学部等教員組織編制方針」（令和３年 10 月制定）を定め，研究科長及び執行部がジェンダーや年齢の偏りにも配慮した教員配置計画を作成している。策定した計画に基づき，適切な教員の配置を行っている。薬学部自己点検・評価委員会は，専任教員の数，専任教員の年齢構成及び男女構成，専任教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）や採用・昇格実績に基づき，組織の適切性を点検・評価し，課題を抽出する。薬学部内部質保証推進委員会が点検・評価結果を検証し，次期教員配置計画や公募方針等について執行部へ改善の提言を行うことで改善・向上に努めている。さらに，定期的に一般社団法人薬学評価機構による分野別評価（第三者評価）を受審し，外部からの視点から組織の質保証について検証・改善を図る体制を構築している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ＴＡに対する体系的な研修が実施されていないことから，教育支援者としての基礎的な能力や倫理的配慮等を学ぶ機会が限定されており，教育の質の担保や学生支援の効果という観点では課題であり，改善が求められる。

公募以外の選考（推薦・招へい・昇格）においては，選考理由や基準の透明性及び選考過程の公正性をどのように担保するかが今後の課題であり，改善が求められる。

年齢構成の偏りに対する配慮は記述されているものの，具体的な年齢分布の把握状況や偏りを是正するための数値的目標・分析に基づく改善施策については言及がなく，今後の課題であり，改善が求められる。

実際の男女比の現状や過去の採用における具体的な対応実績，又は今後の改善方針についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不足しているため，課題であり，改善が求められる。

教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われている点は，組織的な評価体制の構築に向けた第一歩として期待できる。しかし，現時点では具体的な評価方法や基準が確立されておらず，教育活動・研究活動・社会活動等の活性化に直結する仕組みとしては十分に機能していないため，改善が求められる。

令和７年度から，大学院生に対するＦＤ活動の一環として，大学院学務委員会所管の下，ＴＡの事前研修として「授業補助業務実施に当たっての日本大学の教育について」の動画視聴及び「ＦＤガイドブック」の確認を実施し，教育支援者としての能力向上を図った。

教員の採用及び昇任は，「日本大学薬学部教員資格審査基準」及び「日本大学薬学部教員候補者選考申合せ」に基づき行われている。研究実績，専門知識，教育能力等を多面的に審査した後，人事教授会構成員の投票により厳正に選出されている。教授，准教授，講師及び助教の人数のバランスに著しい偏りは見られず，教育研究活動を支える体制が構築されている。准教授以上の採用・昇格に当たっては，選考委員会を設置し，「日本大学薬学部教員資格審査基準」により定められた各分野における審査基準に基づき書類審査を行い，教授会においてプレゼンテーションを実施し，選考結果を報告した上で投票により決定していることから公募以外の選考方法においても，透明性及び公平性は保たれていると考える。

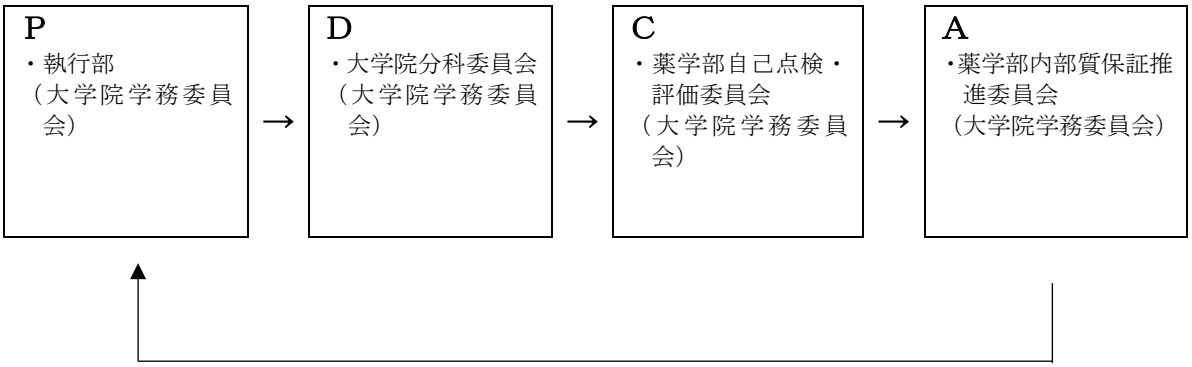
教員の年齢構成については，偏りに配慮した教員配置計画に基づき実施していることからほぼ均衡している。女性教員数の割合は教員全体で 20.6％であり，特に教授職では 7.1％にとどまっているが，女性教員の絶対数が少ないこともあり難しい課題ではあるが，執行部，教授会，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会が連携し，現状を検証することで，改善に努めたい。

教育活動・研究活動・社会活動等の活性化を促す目的で，教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われ，学部長へと提言した。その後，学部長より改めて，より具体的な評価案の検討が求められており，関係各委員会との情報共有によりその検討を行っている。

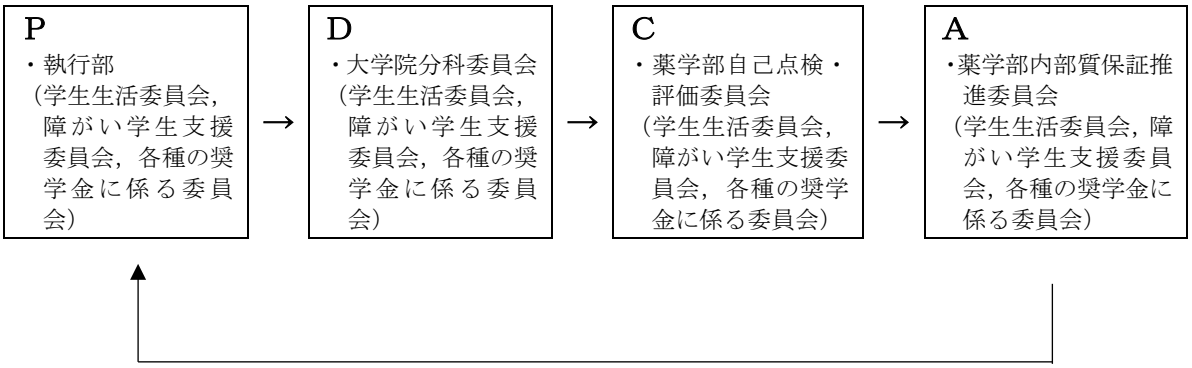
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

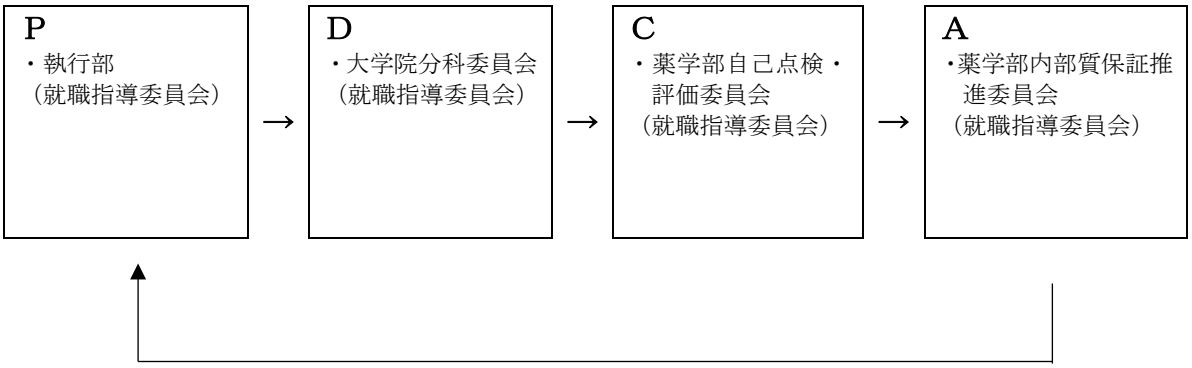
【学習面】



【生活面・経済面】



【進路面】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項については，学習面では大学院学務委員会，生活面・経済面については基本的には総じて学生生活委員会（障がい学生に係る場合は障がい学生支援委員会，奨学金に係る場合は，各種の奨学金に係る委員会），進路面については就職指導委員会が日常的な運用と課題の把握を担っている。大学院における学生支援全体の適切性については，これらの各委員会による検討・検証結果に基づき，総括的に大学院分科委員会を通じて薬学部自己点検・評価委員会が点検・評価し，その結果を薬学部内部質保証推進委員会が検証し，必要な改善を執行部へ提言する体制の構築を進めていく。

改善・向上を図った事例では，学生の意見箱による学習面，生活面・経済面及び進路面など多岐にわたる学生の意見を受けて，学生生活委員会で対応等を検討し，学生支援環境を恒常的に改善できるようにしている。

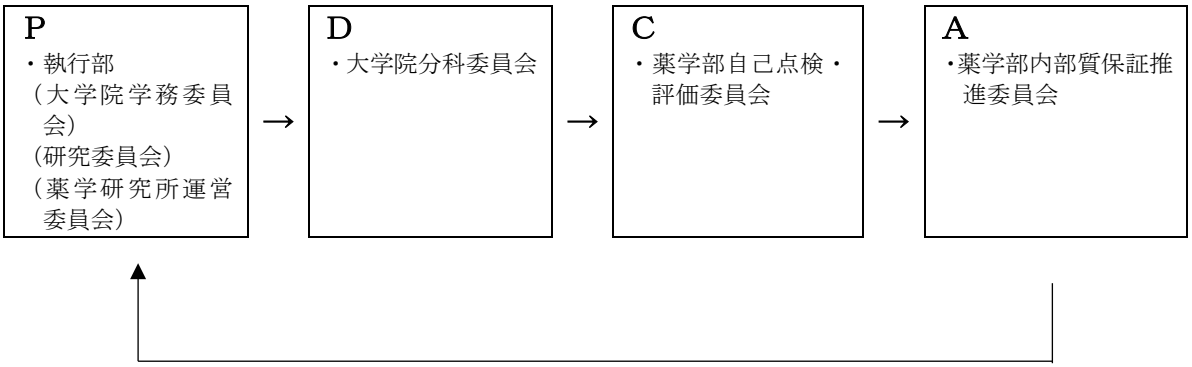
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

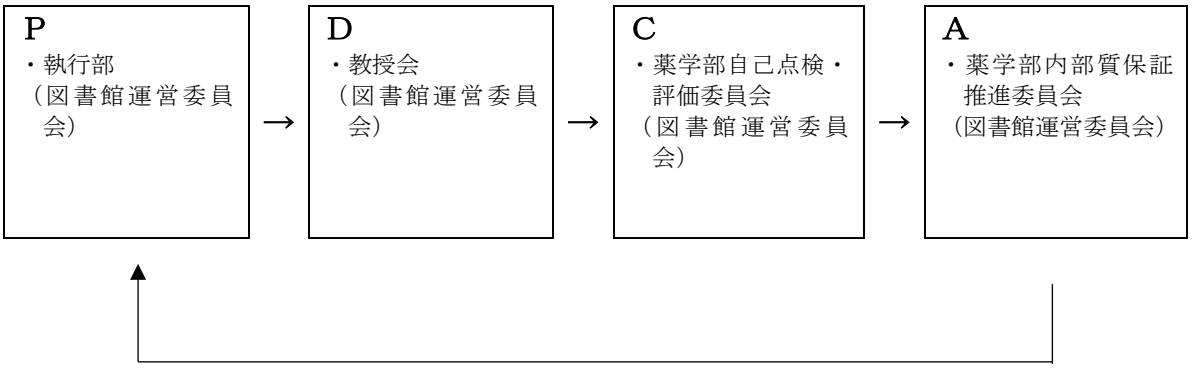
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【施設・設備】



【図書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩4　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究活動を支える施設・設備，図書等の適切性について，薬学部では以下の枠組みにより定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は「研究設備・機器の稼働率及び老朽化状況」「図書資料の充足率」等の客観的指標に加え，利用者アンケート等による利便性の評価を基準としている。点検の体制は，研究委員会，薬学研究所運営委員会及び図書運営委員会が各担当分野の点検を行い，その結果を薬学部自己点検・評価委員会が総括する。各委員会が

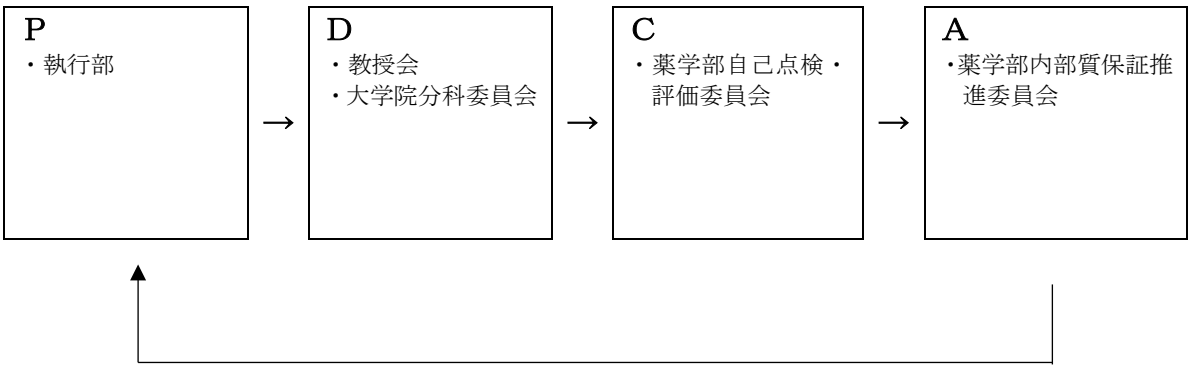
作成した点検結果に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が現状と課題を整理した「自己点検・評価報告書」を作成する。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が内容を検証し，改善が必要な事項を執行部に提言する。執行部（各委員会）は，これに基づき次年度の整備計画を策定する。上記枠組みに基づき，研究環境の改善を図った事例として，令和５年度に実施した共同利用研究機器の再整備が挙げられる。令和５年度，研究委員会において，共同利用研究機器の利用状況に関する再調査を実施し，利便性を加味した配置換え及び廃棄を決定，大学院分科委員会での承認を受け整理を実施した。また，研究施設に関しては，高性能な研究装置等を備えた分子薬学研究センター（７号館）における共同利用実験室の利用について，令和６年度から保安・安全を加味した利便性向上のため，研究委員会及び薬学研究所運営委員会が主体となって対応を検討し，大学院分科委員会における承認の上，一部，開放型の実験室管理及び利用者を限定した開錠管理型の電子錠システム導入に至った。引き続き，今後必要とされる機器の更新や研究施設の利便性向上について，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会との情報共有により，検討及び検証を行い，研究時間の確保や最新の研究活動を維持するよう図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科の社会連携・社会貢献として，地域住民の健康支援を目的とした公開講座を年１回，本学部において開催している。令和７年度の参加者は，41 名（令和７年 10 月 26 日（日）開催）であった。また，薬草を通して薬への関心を深めることを目的とした薬草教室を年２回開催し，外部講師による講演会と併せて薬用植物園の一般公開を行っている。令和７年度の実績は延べ 170 名（第１回[令和７年５月 10 日（土）開催]40 名，第２回[令和７年 10 月 26 日（日）開催]130 名）であった。

このほか，船橋市と共同して地域住民の健康維持・向上を図る講演会を実施している。また，小・中学生を対象とした科学実験教室を船橋市内で開催し，理科教育への興味喚起と将来の科学者育成に寄与している。

これらの取組は，主として広報委員会が中心となって企画し，演題や開催場所，日程等を検討している。企画ごとに参加人数の推移や参加者属性，参加者アンケート結果などを分析し，次年度以降の内容や広報方法の見直しにつなげることで，継続的な改善・向上を図っている。これらの結果は，教授会に報告され，企画の妥当性や社会的効果について検証が行われている。また，地域への継続的な貢献として，学校薬剤師を務める教員が９名おり，学校環境衛生の維持・向上に加えて，オーバードーズの危険性など薬の適正使用に関する講話も行うことで，児童・生徒及び保護者への啓発に貢献している。

現役の薬剤師に対する貢献としては,「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」を本学部で開催し，会場の提供に加えてタスクフォースとして教員を派遣している。これらは，千葉県薬剤師会，千葉県病院薬剤師会及び関東地区調整機構との共同開催であり，過去３年間では，実務実習指導薬剤師養成ワークショップを令和３年度及び令和６年度に，アドバンストワークショップを令和５年度に本学部で開催し，それぞれ２名の教員をタスクフォースとして派遣することで，実務実習教育の充実に寄与している。

一方，日本大学薬学生涯教育講座は，地域医療を担う薬剤師の質保証向上を目的として，薬剤師認定制度認証機構の生涯研修プロバイダーの認定を受けて実施している。同講座は５つのプログラムから構成され，一定時間数の受講に応じて認定シールを発行し，認定薬剤師の育成に努めている。これらの取組状況は逐次，生涯教育企画専門委員会に報告され，その後，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会にも情報共有されている。令和６年度の実績では,「最近のトピック」を年４回開催し延べ 146 名,「ファーマシューティカルケアの最前線」を年４回開催し延べ 60 名,「ブラッシュアップセミナー」を年１回開催し 25 名の参加があった（「薬剤師実践セミナー」は中止,「大学院講義受講コース」への参加はなし)。

これら共有された情報を基に，薬学部自己点検・評価委員会において点検し，薬学部内部質保証推進委員会において本学部が生涯教育のプロバイダーを取得している点は評価できるものの，受講者数及び認定薬剤師の発行数が十分とはいえないと評価を行った。そして，令和６年度の薬学部内部質保証推進委員会において執行部に対し，周知方法等の工夫が必要である旨の提言を行った。

その結果を受け，本学部公式ＳＮＳを活用した開催案内の発信など広報活動の充実を図り，受講者数の増加に向けた改善策を講じている。しかし，令和６年４月～12 月の延べ受講者数が 206 名であったのに対し，令和７年４月から 12 月 10 日現在では 166 名にとどまり，昨年度同時期と比較して約２割の減少となっている。以上のことから，現行の取組のみでは十分とはいえず，生涯教育企画専門委員会において，テーマ設定や開催形態，周知方法等について検討を行う計画を立てている。テーマについては，引き続き薬学的及び医学的ニュースやトピックなど社会的関心の高い内容での開催を行う。また，現在は日曜日の午後開催である「ファーマシューティカルケアの最前線」において，一定期間のオンデマンド配信により視聴確認を実施しながら受講者が受講しやすい時間帯での参加を促す予定である。さらに周知方法について，年度内の開催予定を当該年度の 4 月には公開することにより，参加者が参加予定を立てやすくするなどの工夫を行い，引き続き検討・改善を進めることが課題である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし